

ふれあい

2016, 1, 1
第32号

県央高齢協

三宗市南四日町一の一五の八
勤労青少年ホーム連合県央地域協議会内
TEL 0256(32)6303



年頭にわたっての御挨拶

～参議院議員選挙の勝利を目指して～

県央地域高齢者協議会長

関 信弥

新年あけましておめでとございます。皆様には明るく健やかに、新しい年を迎えられたこととお喜びを申し上げます。

昨年は、安全保障法制の制定や各地の風水害被害などで、課題を残した問題も多くありました。それらの中からとりわけ、戦争法案と言われた安全保障関連法案には、日本の将来にも禍根を残しかねない重大な法案でもあるのに、政府は何本かの法案を一つにまとめて提案するという粗雑なやり方で通してしまいました。国会の審議の中でも野党議員をなめたような真面目さを欠くような場面もありました。とにかく、課題の残る国会運営でした。

こうした政府の態度に激しく反発したSEALDSの若者たちの精力的な動きと及ぼす範囲の広さに驚きと敬意を抱きました。それは、「戦争反対」を唱えていることだけではなく、自分の頭で考え言葉にし、「私は嫌だ」と伝えられる空気に流されにくい社会を作ろうと、圧力に負けず取り組んでいるからです。こうした理念を行動の根幹に敷いての行動こそ、この国の民主主義にとって必要です。

このことは、一先ず協に置いて、

今、県央地域高齢協の組織の中のいくつかの単会で、夏の参議院選挙に向けて、勉強会やいろいろな準備作業が行われ、組織内候補や組織重点候補の当選を目指した精力的な努力が積み重ねられています。

選挙法の改定で、定員が減ったり、選挙区域が変更したりと、選挙環境は悪くなる大変な状況です。そんな中、友人や知己を頼って支持を広げる取組が行われています。参議院の選挙は直接の政権交代の選挙とはなりません、広く固い次の橋頭堡を築く大切な選挙です。

このような運動を、該当候補者を持つ単会の運動とすることなく、県央地域高齢協全体の運動として取組を拡げて盛り上げてゆくことが大切です。

運動の仕上げは投票日に投票することです。大切な一票です。権利を無駄にしないように、投票に行く運動を拡げましょう。

永い道程を思の長い運動を続けてもらうようにお願いすることになります。政治の成りゆきを変えるために、やらなければならぬことと、思い、年頭のあいさつに付け加えてお願いをさせていただきました。

県央地域高齢者協議会の皆様の一年度の御健康と御多幸をお祈りいたしまして挨拶いたします。

二〇一六年 一月元旦

連合新潟高齢者協議会の総会の概要 (7月総会資料より)

1 活動方針

2014年12月の衆議員選に大勝した安倍政権は、株価の引き上げ、成長戦略などの政策を打ち出すばかりで、生活の底上げや格差是正の観点からの政策や税制改正の前進はほとんど見られない。高齢者を巡っては、年金のマクロ経済スライド名目下限方式の堅持や地域包括ケアシステムの構築、後期高齢者医療制度の継続など重要課題が山積みしている。

また、政府は昨年、武力攻撃事態法等一括した安全保障関連法案を閣議決定した。安保法制は、憲法や国の基本政策に関わる問題であるにもかかわらず、存立危機事態という新たな概念をつくったり、「周辺」の概念を撤廃するなど自衛隊の活動を歯止めなく拡大させようとしている。同時に、連合が反対をしている「派遣法改悪法案」や「過労死促進法案」等の労働法制の改悪法案を強行成立させようとするなど安倍政権の暴走が続いている。

平和で生き甲斐のある生活は、現役・年金生活を問わず全世代が等しく望んでいるところである。今日、急激に進む少子・高齢化の中で、将来に対する「希望と安心の社会づくり」が強く求められている。そのため高齢協としても、「信頼される地域団体」として、自らの運動を地域社会に広く定着させていく。

2 運動の視点

「健康年齢を伸ばす」「個人の生活に役立つ活動」「情報の発信と組織拡大」の「三課題」を引き続き軸として運動を進める。

3 運動の課題と領域

- (1) 高齢協の使命
現役時代の運動の継続ではなく、高齢者が遭遇している課題に特化した取り組みをする。
- (2) 退職者連合、連合新潟と一体となった取組
介護・年金・医療などの退職者連合の指示に基づき、地方で取り組むべき課題を整理し、安心で安全な生活が送れる社会づくりに取り組む。
- (3) 連合新潟の方針を確認し、現退一致の課題の取り組みを自主性を尊重し進める。

4 具体的な取組

- (1) 三課題の実践 (2) 組織拡大・地域高齢協活動の強化 (3) 高齢協会員の地域貢献人材の名簿化 (4) 介護保険制度改革・地域包括ケアシステムの構築の取組 (5) 労福協運動への参加

※ 詳細につきましては各組織幹事にお尋ねください。

【介護保険研修会】

介護保険制度の充実 地域包括支援センターの拡充を

林 隆昌

十一月十三日、県高齢協で介護保険制度の研修会が開催された。高倉県会議員(民主党燕市選出)より新潟県の医療、介護に関わる諸問題について以下の諸点について説明があった。

○医療、介護サービスの提供体制改革の取り組み姿(全体像)

医療、介護従事者の確保、育成

○地域包括支援センターの業務

住民の各種相談を幅広く受け付けて制度横断的な支援を実施

○新潟県の高齢化の推移と将来設計

総人口は減少するが、高齢者の割合は増加

○新潟県の人口構造

【団塊世代】が六十五歳以上に

○市町村別高齢者推計(六十五歳以上、七十五歳以上)

平成三十七年に六十五歳以上、四十二年に七十五歳以上がピークに

○新潟県の要介護(要支援)認定者の推移

介護が必要な高齢者は、年々増加している

○高齢者単身者所帯の推移、介護給付費の推移

高齢者認知症者は増加し、介護給付費は年々増加している

○介護保険の財源、介護保険料の推移

介護保険サービスを利用する為にかかる費用のうち、1割を利用者が負担し、9割が保険から給付される。財源は公費と四十歳以上の皆さんの納められた保険料でまかなわれている。保険料は3年に一度の改定のために増加している。

次に、新潟市(小須戸)地域包括支援センター長の曾我さんより地域包括支援センターの業務、役割について、「高齢者がいつまでも自分らしく住み慣れた地域で暮らしていけるよう、高齢者の生活を総合的な立場から支えていく」と支援業務について説明があった。

研修会を通じ感じたことは、高速な高齢化、人口減少は避けることができない現実ではあるが、それらにどう取り組むかが問われている。施設介護から、在宅介護重視へ「住み慣れた地域で暮らしていけるよう」に異論はないが、介護職員の不足、介護離職者の増加に歯止めをかけるければどのような計画も絵に描いた「モチ」になってしまう。介護従事者の賃金は労働者平均より10万円は低い現状を早急に改善することが急務であると思う。制度や運用に諸問題があると思う。今年も三条、加茂、燕市に対して、介護保険制度に関わる要請を県高齢協指導のもとで行います。

労働金庫所得税確定申告説明会

日時 2016年2月4日(水) 午前の部 9時～12時

午後の部 1時～4時

会場 三条市須頃地場産業センターリサーチコア6F 研修室

【単会紹介】JP退職者の会】

退職者の会の活動について

会長 平賀 省三

2014年8月27日、三条市「饑心亭おの」を会場に、JP労組三条支部長をはじめ三役執行役員を迎えて、支部主催退職者の会設立総会を開催。会場は大先輩が長年築き上げてきた郵政退職者三条支部協議会の最後を見届けに、多くの仲間が参加、結成当時は懐かしく振り返っていました。

総会は、日本郵政グループ三条支部退職者の会運営規則の議題に移り、目的は、『会員相互の親睦と福祉の増進をはかり、社会福祉の向上に向けた活動を行う』ことを基本に全員で確認し承認を得ました。初代役員人事では、JP労組の提案通り左記の人たちが今後2年間、三条支部退職者の会の組織運営を行うことになりました。

会長 平賀 省三 事務局長 田代 登

副会長 長沢 康一 事務局次長 関 盛太

副会長 渋谷 修 会計監査 上野 弘 石田 力

幹事9名の中、会計担当 中村信明 県央高齢協担当 田代 清

2015年3月、第1回定期総会を開催。JP労組三条支部の全面的な協力のもと、私たちの組織であるJPの一員として、三条支部退職者の会の結成を果たすことができました。しかし、1年間、組織の発展を目指して会員相互の「親睦と交流」を深めてきましたが、残念ながらよい結果を残す事が出来ず悔いが残る1年でした。要因として、

○会員の高齢化 ○新規会員拡大 ○幹事同士の意識統一不足
支部としての今後の取り組み

○最大の目的は親睦と交流で心身の健康を保持です。○JP労組と郵政退職者の会と共有し会員の拡大 ○各種会議の定例化
以上退職者の会として、会員が参加できる組織を目指します。

【県央高齢協活動スナップ】

『くつろぎ交流会』 於・加茂美人の湯 (参加者23名)



アジア・アフリカ支援米稻刈りへの参加 (支援米事業最終回)

